

初のみ山木白き八重 與一椿赤の万 高尾白き八重

あられ八重 一せき赤き千重 名月白き八重 金杉白き八重

いだてん白き八重 ほの椿白き八重 八重白き八重 だるま赤き八重

清水白き八重 八坂飛入赤き八重 かうらい白の さひふ赤き八重

初夜白地 藪椿赤白 玄ゆ白の とつ白き八重

右は椿の名なり、此外にも品々あるべし、

〔大和本草十ニ〕山茶ツバキ 中 本草綱目ニ、山茶ニ海。榴。茶。石。榴。茶。アリ、是ツバキノ品類ナリ、日本ノ古

書ニツバキヲ海石榴トカケルモ由アル事ナリ、酉陽雜俎續集曰、山茶似海石榴、然ラバ山茶ト海

石榴ハ別ナリ、凡山茶ハ花ノ盛久シ、葉モ花モ美シ、多クウヘテ愛玩スベシ、ツバキヲ植レバ枯ヤ

スシ、山茶ハ枯ヤスカラズ、昔ハ本邦ニ紅ノ單花ノミアリテ、白ツバキモマレナリ、寛永ノ初ヨリ

ヤウヤクツバキノ數多ク出來シニヤ、烏丸光廣卿ノ百椿圖序ニ、此比世ニモテハヤシ品多クイ

デキタル事ヲカケリ、天武ノ御時ハ古代ナレバ草木ノ奇花マレナルベシ、白ツバキヲメツラシ

キ物ニセシハムベナリ、今ハツバキ紅、白、單葉、重葉、千葉、其品多クシテ數ヲシラズ、玉。島。山。茶。ハ無

蕊多葩、一花ニ凡七十餘片バカリアリ、白アリ、紅アリ、山茶ノ奇品ナリ、又南京山茶アリ、葉長ク葉

ノ色常ノツバキニカハレリ、花モ葉モ異ナリ、是亦奇品ナリ、十。輪。山。茶。アリ、一樹ノ中紅白數種異

品多ク開ク、山茶ハ春植ルニ、不宜、五月中旬ニ可植、五六月枝ヲサス、又春モサスベシ、小枝ヲ切テ

葉ノウラノ枝ノ末ヲ一寸半許、馬ノ耳ノ如クソギ、切口ヲ二ニワル、ワリタル處根生ズ、冷水ニ浸

シ置テ挾ベシ、枝ヲ切テ後暫時モ乾カシムル事ナカレ、赤土ヲ泥トシ、雞卵ヨリ大ニ丸シ、枝ヲ赤

土ノ丸ニテ包ミ土ニウフ、挾ムハアシ、シバク、水ヲソ、ギテ土ヲ乾カシムベカラズ、能活シ